※令和４年度以降入学生用

学校番号	C4001

令和８年度　音楽科

科目	音楽Ⅰ	単位数	2
使用教科書	「音楽Ⅰ　改訂版　Tutti＋」　（大修館）		
副教材等	―		

	前期	後期
単位	1	1
レポート	３通	３通
必要出席回数	４回	４回
テスト	○	○
課題・実習等	歌唱、リズム学習（器楽）	

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

●音楽理論の基礎、楽典、音楽史、諸民族の音楽、日本の伝統音楽、世界のポピュラー音楽等、幅広く学習します。
●実技は歌唱や簡単な打楽器を予定しています。

2　学習の到達目標

（1 ） 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
（2 ） 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
（3 ） 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。　(知識) ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。　(技能)	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わり について考え、 自己のイメージをもって どのように表すかについて表現意図をもったり 、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組もうとしている。

- 学習指導要領(第１章第２款の５)に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用する。
- 学期末に５段階で評価する。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

範囲	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	歌唱	課題曲練習 「浜辺の歌」 「'O sole mio」 「野ばら」 歌唱の楽譜を用いたリズム学習	a:創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱している。 b:曲想を歌詞の内容とかかわらせて、創造的に表している。 c:歌唱、鑑賞、楽典の学習に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	レポート スクーリング	レポート スクーリング	スクーリング
	西洋音楽史① 楽典の知識①	古代、中世の音楽 ルネサンスの音楽 バロックの音楽 古典派の音楽 音名 音符と休符 拍子 楽語 総合芸術における音楽 ロマン派の音楽～ 近代・現代の音楽～ 現代日本の音楽	a:様々な時代の音楽や作曲者の特徴と、その文化的・歴史的背景を理解している。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受して鑑賞している。 c:歌唱、鑑賞、楽典の学習に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	レポート スクーリング テスト	レポート テスト	レポート スクーリング
後期	歌唱	課題曲練習 「浜辺の歌」 「'O sole mio」 「野ばら」 歌唱の楽譜を用いたリズム学習	a:創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱している。 b:曲想を歌詞の内容とかかわらせて、創造的に表している。 c:歌唱、鑑賞、楽典の学習に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	レポート スクーリング	レポート スクーリング	スクーリング
	世界の諸民族の音楽 日本の伝統音楽	音階と階名 調号と主音 反復記号 アジア・ヨーロッパ、アメリカ地域の音楽 日本の伝統音楽「箏・三味線」などを用いた音楽	a:様々な時代の音楽や作曲者の特徴と、その文化的・歴史的背景を理解している。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受して鑑賞している。 c:歌唱、鑑賞、楽典の学習に関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。	レポート スクーリング テスト	レポート テスト	レポート スクーリング

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度